

伐木作業の手順と注意点

1. 作業前の打合せは、各人の意見を十分に出し合い仕事の内容を十分理解し安全項目を確認する。
2. チェーンソーをはじめ道具類は点検整備しておき、すぐ使用できるようにしておく。使った後は必ず掃除して所定の場所に納める。
3. 保護帽は完全に着用する。
4. 作業者同士は十分連絡を取り安全を確認した上で作業に取り掛かる。各人の所持している笛等で注意し合う。
5. 伐倒者は必ず周囲を確認する。追い口を切る前、伐倒直前には掛け声をかけるか笛を吹いて周囲に注意を促す。掛け声が掛かったり笛が鳴った時は、必ずそちらを見てそれに対応した行動を取る。
6. 伐倒者と枝払、皮剥をする者とは十分に距離を置いて作業する。左右の間隔は、木の長さ分だけ離れていれば安全だが、上下の間隔は特に十分取り、伐倒木の滑落による事故を起こさないように気をつける。
7. 伐倒木の枝払は、周囲をよく注意し斧を振った時に周りの雑木や石等に斧が当たったり斧の方向を誤らないように気をつける。特に難しい時にはゆっくりとすぶりしてみしてから、安全を確認して再度斧を使うようにする。速水林業ではこの事故が多い。
8. 作業中はわき見をしながら作業したり、考え事をしながら作業したりすると集中力が欠けるので、作業中はそのことに集中するよう特に刃物を使う時は気をつける。
9. 掛かり木にならないように伐倒するのが理想であるが、万一掛かり木になった時は、それを落とそうとしてその上に更に重ねて伐倒するというようなことはしないで、必ず一本ずつ処理していくこと。
10. 掛かり木を倒す時、不注意に上を向くと折れた枝が落下して事故を起こしがちなので、ロープを掛けて引き落とすとき等、十分にロープの長さを保つようにする。また速水林業考案の滑車を付けたロープを使ったり、木回し（爪のついたワイヤーロープ）を使って伐倒する。
11. 掛かり木になったまま放置しておく、風が吹いたりして木が動き自然に倒れることが多々あるので、掛かり木は必ず倒し放置しないようにする。

12. 小径木の間伐の時、立てたまま剥皮するとやりやすいのでつるを残したまま次々と立てたままチェーンソーで先切りするが、この場合も自然に倒れることがあるので、つるを十分につけておくか、伐倒する前に剥皮する方が安全であり、さもなくば安全に倒してから剥皮するようにする。
13. 伐倒木の滑落を防ぐため枝の一本を払わずに残し、その枝を立木や切株、雑木等に掛かるようにしておく。
14. 地際の枝等で枝払しにくい枝は払いやすい枝から落としていき、最後に木を回して枝払がしやすいように枝の位置を上に向かせてから枝を払う。木を回す時は手頃な枝を一本残しておいてそれを持って回すと楽に回すことができる。
15. 伐倒木が元から離れる時は、他の切株や石等に当たり、伐倒木の元が跳ね上がることがあるので倒れる瞬間は安全な位置にさがっていること。
16. 安全作業カード、伐木造材編等を見て参考にする。